

スポーツバンドと音楽教育

仙田 航

私はスポーツバンドの活動を通して、日々の学校現場とはまた一味違った様々な感想を抱きました。演奏者としての自分と教育者としての自分とでは立場が全く異なりますが、バンド活動を通して感じたことは、日々の授業に生かせるのではないかと思います。バンド活動で私自身が実感し、生徒にも実感してほしいことが2つあります。以下に述べたいと思います。

1つ目が「音楽を通した仲間との絆」です。私はバンドメンバーの中では一番年下、教員としても一番後輩という立場ですが、演奏者という立場では、皆が対等でないければなりません。活動し始めた頃は、思ったことをあまり指摘することができなかったのですが、お客様によりよい音楽を届けるために、次第に意見を言い始めると、仲間からもアドバイスを求められるようになりました。より良い音楽にするため、コンサートを成功させるためにアドバイスをしあい、時には本気でぶつかりあうこともあります。その過程を乗り越えてこそ絆が生まれ、今ではバンドメンバーは私にとって特別な存在で、スポーツバンドは私の居場所の一つです。私はこのような絆を生徒にも実感してほしいと思います。例えば合唱コンクールのための練習では、私が生徒の歌を聴いてアドバイスをすれば曲の精度は高まりますが、生徒の絆を深めるという点では成長しません。生徒が互いに聴きあって、思ったことや改善点を言い合う場面を作らなければなりません。学習指導要領が改訂し、「主体的・対話的で深い学び」の重要性が謳われていますが、「対話的」な学びの先になにがあるのかということを考えることで、私自身が納得して授業を展開することができます。合唱練習を通して意見を言い合い、音楽の力を伸ばしていく上で、仲間との絆を実感できるような授業をつくっていかねばならないと感じました。

2つ目は「上達することの喜び」です。私は高校ではオーケストラ、大学では吹奏楽という形で音楽活動を行ってきました。ドラムという楽器は以前から演奏していたものの、ロックバンドという形態は初めてで、太鼓の叩き方から見直すことになりました。久しぶりに振り出しに戻って練習し、学生以来感じていなかった「上手く演奏できない」という悔しさを度々感じるようになりました。その分上達を実感した時はとても喜ばしく、この「上達することの喜び」を感じないまま音楽を嫌いになってしまふ中学生はたくさんいるのではないかと思います。私の使命は、生徒にこの喜びを感じてもらうために、様々な工夫をすることだと改めてわかりました。昨年度のやり方で授業を繰り返すことは簡単ですが、この喜びを味わってもらうために、常に研究をして授業を展開していきたいと思います。

最後に、このようなご時世で、音楽がいかにかに人に幸福をもたらすのかを感じています。これからも一人の演奏者として一人でも多くの人を感動させたいと思います。